

國學院大學學術情報リポジトリ

『國學院大學国学研究プラットフォーム』の展開：
明治期の国学・神道関係人物を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 遠藤, 潤 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001856

『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開 —明治期の国学・神道関係人物を中心に—』

プロジェクト責任者 遠藤 潤

この研究事業は、日本文化研究所の二部門のうちの一つである「神道・国学研究部門」の研究事業として、平成27年度から開始され3か年の予定で行われる。同部門では、平成23年度に、神道・国学の研究を遂行する拠点としての「國學院大學 国学研究プラットフォーム」(以下、「国学研究プラットフォーム」と略する)を設定した。国学に関わる学内外のさまざまな研究活動の連絡ハブとなるとともに、研究の基礎的情報を蓄積していく拠点を指向している。具体的には、『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築』(平成23～25年度)と『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』を拠点とする国学の『古事記』解釈の研究』(平成26年度)という、2期4年間にわたる研究事業において、「国学研究プラットフォーム」の構築と運営が行われてきた。

今回の研究事業では、「国学研究プラットフォーム」を拠点として、「国学研究の基礎的データ構築」および「国学に関する研究連携のための組織づくり」を継続・発展させる。具体的なデータ構築として、明治期の神道・国学・宗教関係人物の基礎的情報の収集・整理を実施し、また組織づくりについては、これまで定期的に開催している国学研究会を運営するとともに、人物関係の収集情報や研究会などで得られた研究情報の公開を行う。

神道・国学・宗教関係人物の基礎的情報については、研究開発推進機体制以前の日本文化研究所において『和学者総覧』(平成3年)や『神道人物研究文献目録』(平成12年)が

編纂され、また、文部科学省21世紀COE「神道と日本文化の国際的研究発信の拠点形成」(平成14～18年度)および研究開発推進センターにおいて、「国学関係人物データベース」が構築され、関係各分野の研究において有効な情報を提供してきているが、前2点の出版物については刊行からそれなりの年数を経過して、刊行以降の研究成果を取り込む必要が生じている。また、近代の国学・神道・宗教研究においては、必ずしも国学関係人物とは認定されない人物情報も求められている。これらの必要に応えるため、これまで國學院大學、なかでも日本文化研究所、研究開発推進センターなどが蓄積してきた研究成果を、人物をインデックスとして再整理し、基礎的な情報を特定の視点から集約・再検討するとともに、現在までの研究成果をあらためて取り込むかたちでの人物情報の収集を行おうというのが、今回の研究事業の中心たるデータ構築の目的である。明治期の国学者および神道関係人物に関する信頼しうる基本データを収集し、データを公開しうる形へと構成していきたい。

1 事業全体の内容

本プロジェクト全体は、以下の通りである。

I 国学に関する基礎的研究

- ①明治期の国学者および神社・教派神道関係人物の調査・研究
- ②近代における国学から関連領域(信仰、学問、そのほか)への展開の調査・研究

Ⅱ 神道・国学に関する基礎的データの整理・公開

- ①明治期の国学者および神社・教派神道関係人物に関する先行の目録類、「国学関係人物データベース」の記載事項の確認ならびに関係分野の先行研究の確認と内容の検討
- ②明治期の国学者および神社・教派神道関係人物に関する基礎的データの収集・整理・公開
- ③「国学研究プラットフォーム」によるこれまでの研究成果の整理と発信
- ④旧日本文化研究所収集資料（特に近代の神道・国学関係資料）の現存状況の確認
- ⑤学内外の国学研究状況の把握

Ⅲ 国学に関する研究連携のための組織づくり

- ①国学研究会の運営
- ②社家文書研究会の運営

2 平成 27 年度の運営組織

本プロジェクトの平成 27 年度の運営体制は、以下の通りである。

遠藤潤（研究代表者、神道文化学部准教授、研究開発推進機構准教授〔兼担〕）

松本久史（神道文化学部准教授、研究開発推進機構准教授〔兼担〕）

塚田穂高（研究開発推進機構助教）

齋藤公太（東京大学大学院博士課程、研究開発推進機構研究補助員）

芹口真結子（一橋大学大学院博士後期課程、研究開発推進機構研究補助員）

林淳（客員教授、愛知学院大学教授）

一戸渉（共同研究員、慶應義塾大学斯道文庫准教授）

小田真裕（共同研究員、大倉精神文化研究所研究員）

3 平成 27 年度の実施計画

I 国学に関する基礎的研究

本年度は、従来日本文化研究所の編集した関係諸目録、研究開発推進センターが構築している「国学者データベース」などのうち、明治期の国学・神道・宗教関係人物の情報を再確認する。また、主要な人物に関する研究成果については、網羅的なリストを作成する。先行の事典や目録類では確かな情報が得られない人物についても関係資料の搜索と調査を行う。具体的には、京都府立総合資料館、京都市歴史資料館、大谷大学図書館、龍谷大学大宮図書館などでの明治初年の教導職関係人物や神職らについての情報収集である。

Ⅱ 神道・国学に関する基礎的データの整理・公開

明治期の国学・神道の関係人物については、調査項目やデータ設計などの具体的検討を行い、遅くとも下半期からは実際の項目作成を開始する。とりあげる人物の選定も行う。研究者があるテーマの研究を開始し、まず人物の基礎情報を収集しようとする際にさまざまな参考図書やデータベースを用いるが、そうした際に、生没年といった基本的情報が誤っている場合が少なくない。それは、いろいろな事項が先行の参考図書の記事を、検証することなく踏襲して記されることに原因の一つがある。ここでは、基礎データを可能なかぎり確かな研究文献に基づいて記述するとともに、出典を明記することで上記のような問題点を軽減したい。

Ⅲ 国学に関する研究連携のための組織づくり

これまで、神道・国学・宗教に関する若手研究者を中心とした研究発表の場として継続してきた国学研究会について、本研究事業が運営を担い、学会発表や大学院の演習とは異なる位相の研究会として、継続的に実施する。また、近世・近代を中心として、一次史料の

読解能力を研鑽する場としての社家文書研究会の運営を行う。これらの研究会については、研究事業のメンバーにとどまらず、神道・宗

教を歴史的な視点を踏まえて研究しようという姿勢を持つ、学内外の研究者に広く参加を呼びかけ、若手研究者の研究の推進をはかる。